

## 教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）の構想と 無料版・有料版の公開

### Conception and Initiation of Open and Fee-based Educational Reform Skill Learning Online Program: A Course Design Course

鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・長岡千香子  
Katsuaki Suzuki, Toshihiro Kita, Naoshi Hiraoka, Chikako Nagaoka  
熊本大学教授システム学研究センター  
Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University  
Email: ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

あらまし：次世代の大学教員準備を目指して、教育系大学間共同利用拠点が提供するオンラインプログラムの一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」の無料版・有料版を公開した。本発表では、インストラクショナルデザイン理論に依拠し、14年間のオンライン大学院の実践を踏まえて構想した研修の内容・方法及び実現方法について概観する。

キーワード：インストラクショナルデザイン、科目デザイン、FD、高等教育、教育改善スキル

#### 1. はじめに

熊本大学教授システム学研究センターは、「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育系大学間共同利用拠点の一つとしての活動を開始した。2019年4月より、日本全国の大学教員と大学院生を対象として提供するオンラインプログラムの一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」の無料版・有料版を順次公開している<sup>①</sup>。これまでの多くの大学における教職員職能育成プログラム（FD）は、現在の大学での職能を発揮することに留まっていると考えられる限界を意識し、現状への適応ではなく次世代の大学を構築していく教員になる準備と位置づけた挑戦的な内容とすることを目指している。その基盤には、2006年4月に開設以来、「教え方を教えます」を標榜して130人以上の博士課程前期修了生を輩出してきたオンライン大学院「教授システム学専攻」（以下、GSIS）での教育実践<sup>②</sup>とその背景にある教授設計学（以下、ID）<sup>③</sup>がある。IDの研究成果に基づき、GSISでの実践で効果が確認できた方法をもとにすると、どんな設計指針で次世代の大学をデザインすべきか、という問いを自らに課し、その成果を具体化したものである。本発表では、公開したプログラムの構成、デザイン提案、ならびに無料版と有料版の機能について紹介する。

#### 2. 「科目デザイン編」の構成

教育改善スキル修得オンラインプログラム「科目デザイン編」は、表1に掲げる5つの物語からなる導入的モジュール1つと、科目デザインの3つの主要要素である授業方法・評価方法・学習目標についてのデザイン提案をまとめた3つのモジュール、ならびに「科目デザイン編」での学習を自分の担当科目に活かす計画を検討する最終モジュールの5つで構成されている。

導入的モジュール1は、大学教育についての5つの物語を通じて、次世代の大学を想起する契機を狙ったものである。最初の3つの物語は、東北大学で収録・公開している講演ビデオ<sup>④</sup>を資料として再利用した、いわゆる反転授業型の構造を採用した。実践事例の紹介を介して講義依存や基礎からの積み上げという常識への疑問を提起している。また、ビデオがなくWeb上の資料とテキストの読解へ展開する物語4と5では、ビデオ依存の発想からの解放を目指す意図を説明すると同時に、学生主導で学び方を学ぶ学生用テキストを教員も学ぶように誘っている。

表1: 大学教育に関する5つの物語（モジュール1）

物語1：『教材設計マニュアル』をめぐる物語（講義と期末試験不要論）	ここでは、講義と定期試験を止めるという大学改革について考えてみましょう。
物語2：出入口と成長プロセスの設計（3つのポリシーで何が変わったか）	ここでは教育設計学の視座で大学教育全体を俯瞰してみましょう。
物語3：ストーリー中心型カリキュラムの実践（基礎からの積み上げを見直す）	ここでは熊本大学での実践を通して、基礎からの積み上げ以外にできないことがないか考えてみましょう。
物語4：『学習設計マニュアル』で学生の自立を促す（教えない教員になる）	ここではテキストのあとがきを読んで、教えない教員になって自分で学ぶ学生を育てることを考えてみましょう。
物語5：ミネルバ大学の衝撃と10年先行していたGSIS（次世代の大学を想像する）	ここでは、世界に衝撃を与えた「ミネルバ大学」と熊本大学の完全オンライン大学院を比べて、次世代の大学像について考えてみましょう。
課題：次に来る時代を想像し自己変革への行動計画を立てる（有料ユーザーのみ）	次に来る時代の大学教員になるために、あなたはこれから何をしますか？ 行動計画を立ててみましょう。

### 3. デザイン提案

表2に、本プロジェクトで提案している次世代の大学を創造するためのデザインのキーワードを掲げる。正解主義で受験勉強を突破して入学したが生徒のままで学生らしく振舞えない「高校4年生」を学生らしく成長させるためには、認知的発達を促す授業方法を採用する必要がある。知識の暗記と試験一発勝負が単位取得につながる基礎科目の評価方法も見直す必要がある。そして、基礎からの積み上げというアプローチを脱して、入学直後から学習目標を高度化していく必要がある。文科省の推奨するアクティブラーニングは授業方法改革であるが、それに伴う学習目標の高度化と評価と単位認定の見直しが三位一体となることで、本当の意味での大学改革が実現し、次世代の大学授業がデザインできる。これはIDでは50年前から提言されてきた整合性担保のための「メーガの3つの質問」であり、本プログラムにおける中核的提案として採用している。

現状の公開版では、モジュール2～4は、3つのモジュールとも同じ大学授業の事例を取り上げて提案を解説し、提案一つひとつが適切に用いられているかどうかを問う練習問題と、どの提案が用いられているか、それぞれが適切かどうかを問う複合問題と実力チェックテストが用意されている。一方で、授業方法、評価方法、学習目標をそれぞれ独立に扱っており、どの提案同士がモジュールを超えて相互に影響を及ぼすものであるかの整理はこれからの課題として残っている（そのため「仮」とした）。

表2：次世代大学に向けてのデザイン提案（仮）

<p><b>認知的発達を促す授業方法（モジュール2）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 努力と真剣さを求める</li> <li>2. しゃべるのは1割まで</li> <li>3. 大事なことは3回はやる</li> <li>4. 一人で行えることは授業ではやらない</li> <li>5. 個人→グループ→個人</li> <li>6. パラレルセッション</li> <li>7. ルーブリックの前にチェックリスト</li> </ol> <p><b>評価と単位認定の見直し（モジュール3）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再提出可</li> <li>2. 多段階評価</li> <li>3. 持ち込み可</li> <li>4. 問題開示</li> <li>5. ポートフォリオ</li> <li>6. 相互レビュー</li> <li>7. LMSでテスト</li> </ol> <p><b>学習目標の高度化（モジュール4）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学問領域を鳥瞰する</li> <li>2. 歴史をさかのぼる</li> <li>3. 現実場面での活用を試みる</li> <li>4. 複数の視点から分析する</li> <li>5. 自分でコミットする段階に誘う</li> <li>6. オリジナリティを求める</li> <li>7. 学び方を学ぶ目標を追加する</li> </ol>
--

また、導入的モジュール1では物語1から5まで順序良く進めていく想定であるのに対して、モジュール2～4は必要に応じて応用から基礎にさかのぼる構成になっている。このため、一貫性に欠けており、この点も今後の検討課題である。

### 4. 無料版と有料版の機能比較

表3に、現在公開中の無料版と本年度末までに公開予定の有料版の機能比較を示す。無料版は、全コンテンツへのアクセスとクイズへのチャレンジを可能にしており、実力チェックテストに合格するとモジュールごとにバッジが取得でき、バッジの取得状況を示す「学習状況証明書」がいつでも発行される。

一方で、有料版は、他の先行事例に倣って期間を限定して受講者を募集し、履修証明プログラムとして提供し、受講者相互の意見交換や授業改善レポートの相互閲覧や対面交流、あるいは提供側からの添削指導などを伴う形になる予定である。無料版では、掲示板の書き込みのサンプルは閲覧できるが、掲示板への書き込みはできない。有料版の機能を組織単位で提供する（ゆえに、外部からは閲覧できない）「団体版」の設定も検討している。

表3：無料・有料版の機能一覧

機能	無料版	有料版
1. コンテンツ閲覧	可	可
2. クイズ挑戦・記録の保管	可	可
3. 履修開始・終了	常時	期間限定
4. 掲示板閲覧・書き込み	見本のみ	可
5. 学習状況証明書の発行	常時	期間限定
6. 履修証明書の発行	なし	あり
7. 添削指導・対面交流	なし	あり

### 5. おわりに

本プロジェクトは想定以上に準備に長い時間を要し、ようやく公開が始まったばかりであり、公開以後も修正や再検討を要する課題も残っている。「科目デザイン編」の次には、「自律学習支援編」の開発を予定している。さらに、これまでに行ってきた公開講座や関連資源との連携を図り、本センターで蓄積してきた知見をより広く多様な形で活用してもらい機会を充実させていきたいと考えている。

#### 参考文献

- (1) <http://kyoten1.cica.jp/moodle/>
- (2) Suzuki, K. (2009). From Competency List to Curriculum Implementation: A Case Study of Japan's First Online Master's Program for E-Learning Specialists Training. *International Journal on E-Learning*: 8(4), 469-478.
- (3) 鈴木克明 (2017) 教授・学習過程の革新—教授設計論 (Instructional Design) の視座からの提言—. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 3:13-26.
- (4) [http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archiv\\_e/detail.php?id=56](http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archiv_e/detail.php?id=56)